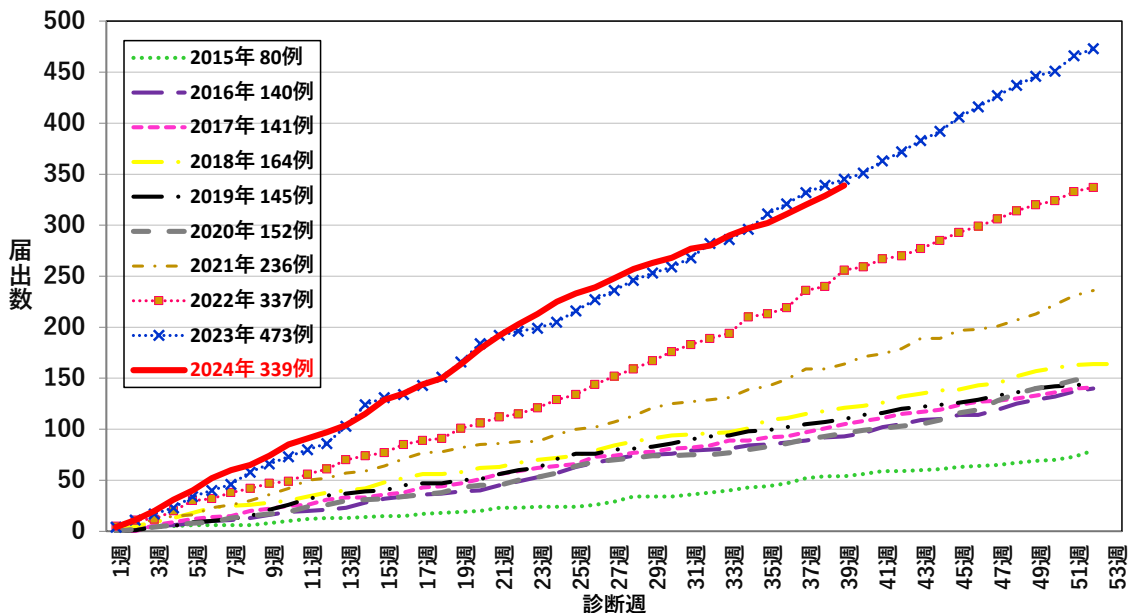


【今週の注目疾患】

《梅毒》

2024年第39週に県内医療機関から10例の届出があり、本年の累計は339例となった。現行感染症サーベイランスが開始された1999年以降最多となった2023年と同水準で推移しており、引き続き発生動向に注意が必要である（図1）。

図1：2015年～2024年第39週千葉県の梅毒年別累積届出数（n=2207）



2024年に届出のあった梅毒339例の概要は以下のとおり。

性別では男性228例（67%）、女性111例（33%）であった。

年代別では、男性は40代が62例（27%）で最も多く、次いで50代が49例（21%）、30代が45例（20%）と続いた。女性は20代が53例（48%）で最も多く、次いで30代が23例（21%）、40代が16例（15%）と続いた（図2）。

病型別では、男性は早期顕症梅毒第I期（以下、第I期）が131例（57%）と最も多く、次いで早期顕症梅毒第II期（以下、第II期）が53例（23%）であった。女性は第II期が47例（42%）で最も多く、次いで無症候（無症状病原体保有者）が35例（32%）、第I期が29例（26%）であった（図2）。

なお、妊婦症例は9例あり、先天梅毒は1例届出されている。

図2a：2024年第1週～第39週の梅毒年代別病型別届出数
【男性n=228】

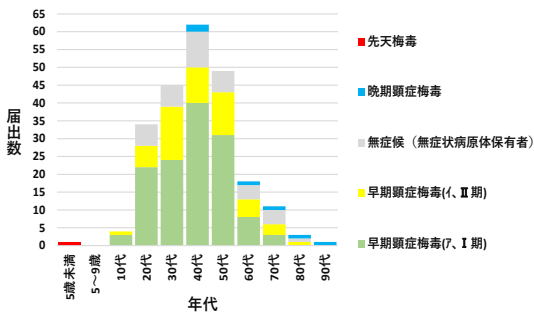
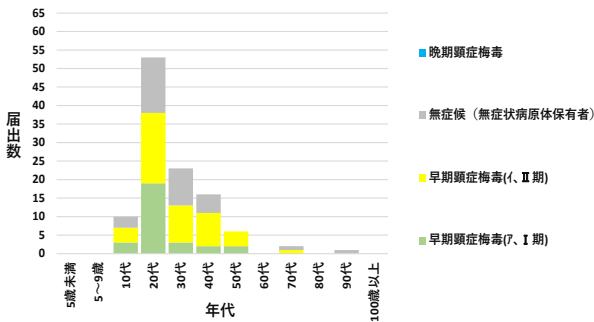


図2b：2024年第1週～第39週の梅毒年代別病型別届出数
【女性n=111】



梅毒は梅毒トレポネーマ（*Treponema pallidum*）によって引き起こされる細菌性の感染症である。感染経路は菌を排出している感染者との性器や肛門、口腔などの粘膜の接触を伴う性行為や疑似性行為によるものである。予防としては、感染者との性行為や疑似性行為を避けることが基本となるが、病変の存在に気づかない場合もあるため、性交渉の際にはコンドームを適切に使用することが感染リスクの低減につながる。また不特定多数の人との性的接触は感染リスクを高めることから回避することが望ましい^{1,2,3)}。

梅毒トレポネーマが粘膜や皮膚に侵入すると、典型的には数週間後に侵入箇所に初期硬結や硬性下疳がみられ（第Ⅰ期）、いずれも無痛性であることが多い。その後数週間～数カ月間経過すると梅毒トレポネーマが血行性に全身へ移行し、典型例では全身の皮膚や粘膜に発疹を生ずるが、その他にも肝臓、腎臓など全身の臓器に様々な症状を呈することがある（第Ⅱ期）。発疹は多岐にわたり、丘疹性梅毒疹、梅毒性乾癬、バラ疹などが高い頻度で認められる。無治療であっても、多くの場合、第Ⅰ期の症状は数週間で、第Ⅱ期の皮膚粘膜病変は数週間～数カ月で消退する。無治療の場合、感染後数年～数十年後に、ゴム腫、心血管症状、進行麻痺、脊髄癆など晩期顕症梅毒を引き起こすことがある。なお、神経梅毒はどの病期でも起こりうる。また、梅毒が治癒しても、再度罹患する可能性がある¹⁾。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。先天梅毒は多臓器の慢性感染症であり、生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを認める早期先天梅毒と、乳幼児期は症状を示さず、学童期以降に Hutchinson3 徴候（実質性角膜炎、感音性難聴、Hutchinson 歯）を呈する晩期先天梅毒がある。感染した妊婦への適切な抗菌薬治療によって、母子感染するリスクを下げる事が出来る^{1,3)}。

千葉県では休日・夜間の検査を実施しています

梅毒は早期に適切な治療を受けることで完治可能な疾患です。早期発見・早期治療、そして再感染を予防するためにも、パートナーもともに検査を受けることが推奨されます。

県では保健所等において休日・夜間の無料・匿名の検査を実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご利用ください^{2,3,4)}。

■参考・引用

1)国立感染症研究所：IDWR 2022 年第 42 号＜注目すべき感染症＞梅毒

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m/syphilis-idwrc.html>

2)国立感染症研究所：梅毒とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>

3)厚生労働省：梅毒に関する Q&A

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryousyphilis_qa.html

4)千葉県：千葉県内のエイズ等相談・検査

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>